

Claris FileMaker Pro 用のアドオン「ImageMap」

バージョン 1.0.0

Juppo Works

Yasuhiro Tambara 丹原 康博

2025.12.05

要件

Claris FileMaker Pro 2024 (21.0) の新機能の「FileMaker Data API を実行」スクリプトステップに追加された「[レコードデータを変更する書き込み操作リクエスト](#)」に強く依存しますので、それ以降のバージョンが必須条件となります。

機能

「ImageMap」アドオンを使うと、画像内に複数の位置と大きさを持つエリアを配置して、スクリプトによる動作を追加し、エリアの追加、削除、状態の更新を同期できます。

編集モード、選択モードのふたつの状態を切り替えて使用できます。

各エリアの「位置、大きさ、形」を編集するためのベクタードローイング機能を備えています。(編集モード)

自前の画像を使用して、地図アプリのように複数エリアの状態を配色で管理できます。エリアを選択するUIなどにお使いください。(選択モード)

インストール

他のアドオンと同様に、最初にインストールする必要があります。

通常のアドオンのインストール手順通り、OS に応じて次のいずれかの場所 (FileMaker Pro インストールパス内の AddonModules フォルダ) に、ダウンロードした圧縮ファイルを解凍した中にある「ImageMap」という名前のフォルダを配置します。

[Windows: Users\username\AppData\Local\FileMaker\Extensions\AddonModules](#)

[macOS: /Users/username/Library/Application](#)

[Support/FileMaker/Extenstions/AddonModules](#)

FileMaker Pro が起動中であれば、再起動してください。

その後、FileMaker データベース内でこれを使用できるようになります。

データベースファイルにアドオンをインストールするには:

1. レイアウトモードに切り替えます。

2. 左側のパネルが表示されていることを確認します。次に、上部にある「アドオン」をクリックします。
3. 左下隅にある + ボタンをクリックします。
4. 次に、スクロールしてアドオンを見つけます。
5. それを選択して「選択」をクリックします。

これにより、アドオンが FileMaker データベース ファイルにインストールされます。
アドオンのウィジットを配置するには、ファイル内のレイアウトにドラッグします。

機能

背景画像の種類について

JPEG、PNG、GIF、WebP、SVG などの一般的なウェブブラウザが表示できる画像形式が使えます。
複数ページを持つドキュメント(PDF、TIFF)は利用できません。

画像は「FileMaker Data API を実行」スクリプトステップを使って Webビューアに渡すため、オブジェクトフィールドに格納したファイルを Base64EncodeRFC関数でテキスト化する計算フィールドが必要です(サンプルデータをご確認ください)。

モードの切り替え

選択モードと編集モードがあり、利用目的に合わせて切り替え可能です。

- **選択モード**
エリアのレコードデータの閲覧や編集のためのスクリプトの実行
状態変更をWebビューアに同期
- **編集モード**
エリアの追加、複製、削除、変形、整列、保存

起動モードの指定方法

起動時のモードを切り替える方法は、次の2種類です。

1. コンフィグレーターのデザインパネルの「起動時のモード」のラジオボタンで選択する
2. ウィジットをロードするスクリプト「ImageMap Send Init」に引数でモードを指定する

2で指定する引数は、1の設定を上書きします。

引数の指定がなければデフォルトのモードで起動し、明示的に引数を指定したスクリプトを再実行すれば、モード切り替えが可能です。

引数には、JSONテキストで、"mode"キーに、"selection"(選択モード)または、"edit"(編集モード)を指定して渡してください。

例)

```
JSONSetElement ( "{}" ; [ "mode" ; "edit" ; jsonString ] )
```

編集モードの機能

編集モードではウィジットの右下に操作パネルが出現します。



エリアの追加

追加できる図形は「円」「矩形(長方形)」「ポリゴン」の3タイプです。



それぞれ追加すると、対応するエリアテーブルにレコードが追加され、カーソルの位置にそのエリアが発生します。



エリアの削除

選択しているエリアがある場合「削除」ボタンで一括削除できます。

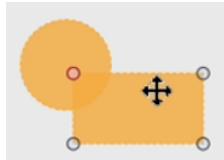
エリアの整列とリサイズ

複数エリアを選択している場合「整列」ボタンのサブメニューで、整列とリサイズ機能が使えます。ただし、リサイズ機能は、ポリゴンタイプのエリアには適応しません。



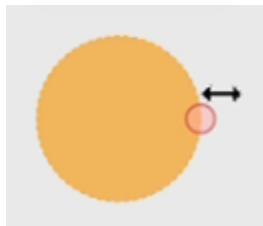
エリアの移動

各エリアはドラッグして移動できます。
複数エリアを選択している場合、まとめて移動します。

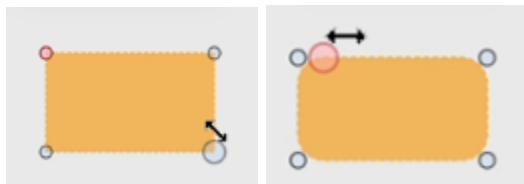


エリアの変形

円のエリアは、制御ポイントをつまんで、半径を伸縮できます。

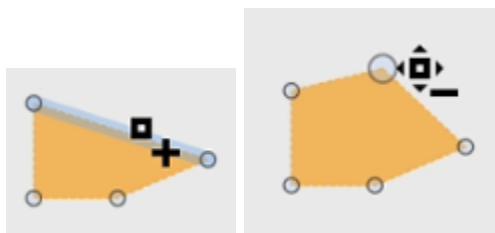


矩形のエリアは、高さ、幅を伸縮できます。
また、左上の角の制御ポイントをつまんで、角丸量を調節できます。



ポリゴンのエリアは、頂点の追加と削除と移動ができます。

各辺上でダブルクリックして頂点を追加できます。
各頂点上でダブルクリックして頂点を削除できます。



エリアの変更の保存

エリアの移動と変形は、逐一保存(データベースと同期)されることはできません。「保存」ボタンをクリックすると保存されます。

保存されていない情報がある場合、保存ボタンが青くハイライトされます。



スクリプト操作

編集モードでは、各エリアをダブルクリック(タップ)したときに、スクリプトを動作させることができます。コンフィグレーターでスクリプト名で指定してください。

選択モードの機能

スクリプト操作

選択モードでは、各エリアをクリック(タップ)したときに、スクリプトを動作させることができます。コンフィグレーターでスクリプト名で指定してください。

また、Webビューアウイジットとデータベース間の同期を行うためのスクリプトが各種あります。
必要に応じて呼び出してください。

- **ImageMap Send Area Updated**
Webビューアに、更新したエリアのデータを送信し表示を同期する
- **ImageMap Send Area Deleted**
Webビューアに、削除したエリアのデータを送信し表示を同期する

コンフィグレーター

コンフィグレーターを開くと、設定可能な項目を3パネルに分類しており、各フォームで入力できます。

- データソース設定
- デザイン設定
- 操作設定

コンフィグレーター - データソース設定

データソースとして利用するふたつのテーブルオカレンスについて設定するフォームです。

- 背景画像データ
- エリアデータ

背景画像データ

- テーブルオカレンス(セレクトボックスから選択)
- レイアウト(セレクトボックスから選択)
 - 指定するレイアウトには、以下で指定するフィールドがすべて配置されている必要があります。
- フィールド(セレクトボックスから選択)
 - 主キー
 - 主キーはオプション指定です。
 - エリアの外部キーフィールド(下記)を同時に指定する必要があります。
 - 両方のキーフィールドが指定されていない場合は、背景画像には指定したテーブルオカレンスの最初のレコード値が使用され、エリアデータはフィルターされずに全レコードが配置されます。
 - 両方のキーフィールドが指定されている場合は、該当する背景画像のレコードが使用されます。
 - レコードごとに異なる背景画像を使う場合は、両方のキーフィールドを指定してください。
 - この場合、エリアデータは外部キーがこの主キー値と一致するレコードのみにフィルターして配置されます。
 - コード
 - 背景画像の Base64 値

エリアデータ

- テーブルオカレンス(セレクトボックスから選択)
- レイアウト(セレクトボックスから選択)
 - 指定するレイアウトには、以下で指定するフィールドがすべて配置されている必要があります。
- フィールド(セレクトボックスから選択)
 - 主キー
 - 外部キー
 - 外部キーフィールドはオプション指定です。
 - 外部キーフィールドが指定されている場合は、外部キー値が背景画像の主キー値と一致するレコードのみをフィルターして取得します。
 - 形状データ
 - 形状データフィールドは、各エリアの位置と形の情報を、JSON 形式で格納するテキストフィールドです。
 - コード
 - コードフィールドには、主キーとは別に、背景画像ごとに固有の各エリアの識別子となる番号や名称を格納するフィールドを指定してください。
 - 選択状態
 - 選択状態フィールドには、状態名キーワードを格納するテキストフィールドを指定してください。
 - デザインパネルで、エリアの塗り色を選択状態ごとに複数登録できます。

- 状態名キーワードとして使用できるのは、この各塗り色に登録する「状態名」の値だけです。
- 割り当て
割り当てフィールドは、たとえば、エリアが誰かに割り当てられている場合、その人の名前を表示するといった目的に対応しています。
割り当て名を格納するテキストフィールドを指定すれば、各エリアの中央に、コード値の下に並べて表示されます。

コンフィグレーター - デザイン設定

- 起動時のモード(ラジオボタンで選択)
起動時に編集モードにしたければこれを指定してください。
- 各エリア中央にコードを表示(チェックボックスで真偽値を設定)
- 各エリア中央に割り当てを表示(チェックボックスで真偽値を設定)
この設定は、エリアのコードフィールドや割り当てフィールドが指定されている場合のみ有効です。有効にした場合はそれぞれの文字サイズを設定できます。
- 背景色
- 編集モードでのエリアの塗り色
- 選択モードでのエリアの塗り色(選択状態)
エリアの選択状態は、キーワードとなる状態名と塗り色のセットを複数登録できます。
状態名はそのまま Webビューアで、エリアの HTML要素クラス名になるため、利用できない文字はサニタイズされます。

選択状態の追加

状態名リストの下部に「選択状態の追加」ボタンがあります。
状態名と塗り色のセット行が追加されるので入力して登録できます。

選択モードでのエリアの塗り色(選択状態)

■ 状態名: (なし:デフォルト色)		
■ 状態名: <input type="text" value="selected"/>		<input type="button" value="削除"/>
■ 状態名: <input type="text" value="disabled"/>		<input type="button" value="削除"/>
■ 状態名: <input type="text" value="foo"/>		<input type="button" value="削除"/>
■ 状態名: <input type="text" value="baa"/>		<input type="button" value="削除"/>
■ 状態名: <input type="text" value="baz"/>		<input type="button" value="削除"/>
■ 状態名: <input style="border: 2px solid red;" type="text" value=""/>		<input type="button" value="削除"/>

コンフィグレーター - 操作設定

次の4つのスクリプトを名前で指定できます。

- 選択モードで各エリアをクリック(タップ)したとき
- 編集モードで各エリアをダブルクリック(タップ)したとき
Webビューアウィジット上の各エリアに対して作動するスクリプトを、スクリプト名で指定してください。

スクリプト引数には、JSON 形式のテキストで

- uuidキー:このアドオンのインスタンス UUID
- editキー:編集モードかどうかの真偽値
- keyキー:対象エリアの主キー値
- codeキー:対象エリアのコード値
- statusキー:対象エリアの状態名(デザインパネルで登録する状態名キーワード)
- assignキー:対象エリアの割り当て値

が渡されますので、必要な動作を開発してください。

- エリアが作成されたあとに実行するスクリプト
- エリアが削除されたあとに実行するスクリプト

Webビューアウィジット上でこれらの処理が完了した後に作動させたいスクリプトがあれば、スクリプト名で指定してください。

スクリプト引数には、JSON 形式のテキストで

- uuidキー:このアドオンのインスタンス UUID
- editキー:編集モードかどうかの真偽値
- keysキー:対象エリアの主キー値の配列

が渡されますので、必要な動作を開発してください。